

米子下町と彫刻ロードをたどるみち

「米子下町と彫刻ロードをたどるみち」は、米子駅前から加茂川沿いの「彫刻ロード」をたどって湊山公園へ、公園内の「海岸遊歩道」を歩き、そこから旧加茂川沿いの米子下町をめぐり米子駅へと戻る、約10kmのコースです。

米子の「新しいかお」と「昔ながらのかお」を訪ねるこの道は、全国2,427か所のさまざまな「道」の中から、「美しい日本の歩きたくなるみち500選」の1つに選ばれています。

彫刻ロード



国内外の彫刻家を招いて、1年おきに開催される「彫刻シンポジウム」。その完成作品は文化ホール前から加茂川沿いに湊山公園につづく遊歩道「彫刻ロード」に展示されています。

街並みにとけ込み、自然にとけ込む彫刻たち。歩きながら楽しむ、文字どおりのオープンギャラリーです。

海岸遊歩道



「城山」の名で親しまれている米子城址から、桜の名所・湊山公園、その中海沿いの一帯が海岸遊歩道です。ここからの眺めは、なんといっても夕景がおすすすめ。

中海にしずむ夕日は、下町散策の後に引き返してでも見たい景色です。

下町散策

七夕神社 → 後藤家 → 京橋 → 寺町通り → 岡本一銭屋 → しょうじき村 → 笑い通り

≫七夕神社

昔、七夕の笹竹は加茂川に流していましたが、京橋のあたりで笹竹が川を埋めつくしたそうです。ところが海運業がさかんだった当時、そのあたりには多くの船が繋がれており、これでは困ると内町の宇気・河口神社に笹竹を持ち寄り、七夕祭をすることになったといわれています。以来、宇気・河口神社は、「七夕神社」と呼ばれるようになりました。

≫後藤家

江戸時代に海運業を営み、藩の米や鉄を船で運ぶ特権を与えられていた回船問屋の屋敷。母屋はもちろん一番蔵や二番蔵も寛政期以前のもので、格子戸や本瓦葺の屋根などが古い町屋の貴祿を見せる国の重要文化財です。

≫京橋

旧加茂川にかかる橋のひとつで、やぐら風の時計が目印。

この川沿い一帯は、白壁土蔵が情緒的。春の桜並木もみごとです。京橋のたもとには、珍しい緑の桜「御衣黄」も植えられています。

≫寺町通り

9つのお寺が並ぶ全国でも珍しい「お寺銀座」。厳粛さの中に、どこかしら下町の風情が感じられます。今回の散策では、妙興寺と妙善寺、その向かいの小道に入っていきます。

≫岡本一銭屋

1950年の「米子博覧会」で作られた大きな一銭銅貨を看板にした駄菓子屋さん。店頭に並ぶ駄菓子やおもちゃは、世代を超えて「たのしい」の一言です。

≫しょうじき村



昔ながらのたたずまいの街並みに、アート&クラフトショップの「是楽暮舎」や「中国茶苑さわ」などさまざまな店が並ぶこの通りは、「モダン」「レトロ」といった言葉が似合います。

≫笑い通り

「しょうじき村」をそのまま歩くと、そこが「笑い通り」。

旧加茂川沿いに行むたくさんのお地蔵さん、その中の「咲い(わらい)地蔵」の名前をもらった通りです。

咲い地蔵の近くにあるのが「笑い庵」。近所の人たちがあたたかくもてなしてくれる休憩処です。加茂川・中海遊覧船のお申込みもこちらで。